

令和3年度亜熱帯緑化事例発表会 審査講評

『～夢・共同一致・癒やし～ クサティ森を核とした花と緑で包む散策コース』

南城市の津波古地区の腰当森（クサティムイ）は、現在でこそ集落の外れに位置していますが、集落創立当初はその中心にあり、現在でも祭祀の場として区民の精神的拠り所となっています。自治会ではこの丘への植樹と公園化の計画を立て、これが幸いにも令和2年2月の環境省の「みどり香るまちづくり」企画コンテストで環境大臣賞を受賞しましたので、この副賞を活用して植樹、樹名板設置を行いました。コロナ禍の下、これらの事業の実施にはかなりの工夫を要しました。さらに、ここを継続的に整備する「つはこロマンの会」を結成し、月1回の清掃ボランティアを行う体制を整備するとともに、次の段階として、この丘を通る農道沿い800mに、5ヵ年かけて並木を整備し、さらにそこから大里城址に至る遊歩道を整備する計画を立て、今年末には最初の植樹を行う見込みとなっています。このように、継続的かつ魅力的な計画を立てて外部からの資金を獲得し、さらにコロナ禍の下でもしっかりと事業を継続できる企画力と実行力が評価されました。

（令和3年度亜熱帯緑化事例発表会審査委員会）